

チャレンジ項目記入数 16

分類	No.	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																		
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
組織・公正な取引	1	【内部管理体制】 ・経営理念及び経営目標を社内で共有、実践している。	●		・経営理念を明文化し、事務所内への掲示と従業員への説明により共有している。 ・従業員は自らの使命・会社への使命を理解し、やりがいを感じている。								8	9								17		
	2	【法令遵守】 ・法令遵守の考えが社内に浸透し、法令を確実に遵守する体制・仕組みを構築している。	●		・グループ会社で月に1回全員参加の法令順守の研修会を開催し、意識高揚に取り組んでいる。																	16		
	3	【公正な競争】 ・不正競争行為に関与しない方針を掲げ、社員に周知している。	●		・会社として公正な取引に努め、取引に関連する部署の全従業員に対して営業会議等を通して重要性を説いている。 ・仕入先に対して、不当な値引き要求が無いかチェックしている。										10							16		
	4	【組織体制】 ・企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対応する担当や専門部署などの体制を整備している。	●		・バイオマス原料の製造という事業活動は、各々の企業から排出される植物残渣の可能性を示す影響を社会に与え、その個別案件対応の為のプロジェクトチームを整備している。 ・グループ会社全体で各専門部署と共有しCS活動に取り組んでおり、毎月の会議にて報告やケーススタディの場を設けている。																	16		
	5	【知的財産保護】 ・知的財産の保護に取り組んでいる。	●		・社内における知的財産については、社員一人一人とNDAを結んでいる。 ・取引先とは一定程度の事業進捲があった場合にはNDAを結び双方の知的財産の保護を明文化している。また関与ある社員を限定し、教育を実施している。							8.2 8.3	9									16		
	6	【個人情報保護】 ・個人情報を適切に管理している。	●		・グループ会社で個人情報に対する基本方針を定め、全従業員に教育を実施している。個人情報を取り扱う社員を限定し、情報漏洩防止を徹底している。																	16		
	7	【ステークホルダーとの対話】 ・ステークホルダー(※)との対話により、自社の活動がステークホルダーに及ぼす影響を把握し、適切に対応している。(※利害関係者:消費者、投資家等及び社会全体)	●		・ステークホルダーの相談窓口(主にホームページ)を開設し、個別事業案件に対応している。																	16	17	
	8	【サプライチェーン管理】 ・サプライヤー、事業パートナー等と、人権侵害の防止、生物多様性や生態系への悪影響の防止、倫理面での適切な対応(ハラスメント・汚職・贈収賄防止)について認識を共有し、共に取り組んでいる。	●		・可能な限り熊本県を中心としたサプライチェーン構築を目指しており、LCA(ライフサイクルアセスメント)における温室効果ガスの総排出量の抑制とリスク低減に取り組んでいる。 ・取引先との対話を通じて活動理念の共有に取り組んでいる。					5		8	10	12	13	14	15	16	17					
	9	【災害や事故への備え】 ・地震や水害などの自然災害や事故などに備え事業継続計画(BCP)を策定し、訓練や見直しを行っている。	●										9	11		13.1							16	17
	10	【事業承継】 ・事業承継に関する検討・対策を行っている	●									8	9											17
	11	【公正な貿易】 ・フェアトレード商品の調達に取り組んでいる。	●			1	2		5		8				12	13	14	15	16	17				
労働・人権	12	【差別の禁止】 ・性別・年齢・障がい・国籍・出自などによる差別や各種ハラスメントを防ぐ体制が整備され、社内で差別や人権侵害がないことを確認している。	●		・インクルージョン経営を社是に取り入れ、「従業員同士が互いの個性を認め合い一丸となって働く」という文言を掲げ、誰もが活躍できる環境づくりに取り組んでいる。			4.3 4.4 4.5	5.1 5.2 5.5		8.5 8.7 8.8		10.2 10.3								16.1 16.2 16.7			
	13	【労働安全衛生】 ・業務中の事故等を防ぐため、安全で衛生的な労働環境の整備に取り組んでいる。	●		・事業遂行に必要な資格や特別教育を取得、受講させ、労働安全衛生に最も力を入れている。 ・安全管理者を配置し、研修や日々の朝礼等を通して、安全な労働環境整備を徹底している。		3				8.8													
	14	【公正な待遇】 ・雇用形態に関わらず、同一労働同一賃金等の原則に沿って対応している。	●		・同一労働同一賃金に沿って、全従業員を正社員として雇用し、公正な待遇を行っている。			5.5		8.5		10.2 10.3												
	15	【ワークライフバランス】 ・働き方の見直し等により、過度な長時間労働を防止し、家庭と仕事の両立を図るためにワークライフバランスを推進している。	●		・定時退社を原則としており、受注量変動時はシフト勤務形態により負荷を平準化し長時間労働を防止している。		3		5.5		8.5 8.8		10.3											
	16	【人材育成】 ・適切な能力開発、教育訓練の機会を従業員に提供している。	●		・グループ会社全体で月に一度、外部識者を招聘し、オンラインで一般社員向け研修を行っている。 ・従業員への資格取得を促し、資格取得にかかる費用を全面的に会社負担している。			4	5.5		8	9												
	17	【健康経営】 ・従業員が心身ともに健康を維持できるよう対策を講じ、生産性の向上等に取り組んでいる。	●		・朝礼、夕礼時に交通事故等への注意喚起を行っている。 ・健康診断・インフルエンザ予防接種の経費を全額補助している。		3				8											17		
	18	【ダイバーシティ経営】 ・多様な人材(女性、外国人、障がい者、高齢者等)が、十分に活躍できる環境の整備に取り組んでいる。	●		・インクルージョン経営を社是に取り入れ、年齢性別国籍問わない昇格制度を制定し、誰もが活躍できる環境づくりに取り組んでいる。			4.4	5.1 5.5		8.5		10.2 10.3								16.7			
	19	【新しい生活様式への対応】 ・新型コロナウイルスをはじめとする感染症対策としても有効なテレワークや時差出勤、ウェブ会議等を導入している。	●		・原則的に、顧客とのミーティング等についてはウェブ会議で対応している。			3				8	9.1		11	12								
	20	【デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進】 ・ICTやAIを活用したデジタル化やオンライン化等のDXの推進により業務の効率化やビジネスモデルの変革に取り組んでいる。	●		・物性検査のデータをメッセージツール(SLACK等)を活用しながら、リアルタイムで現場と外部識者と共有し、生産効率向上に取り組んでいる。			3	4			8	9.1		11	12								
	21	【プライト企業】 ・プライト企業に認定されている。	●									8	9			12								

チャレンジ項目記入数 16

分類	No.	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																		
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17		
環境	22	【環境汚染予防】 ・廃棄物や有害化学物質の適切な管理、及び処理に取り組んでいる。	●		・グループ内に廃棄物処理の専門部署を設置し、汚水や汚泥の適切な管理及び処理に取り組んでいる。			3.9			6.3					11.6	12.4		14.1	15.1				
	23	【エネルギー】 ・電力やガソリンなど、自社のエネルギー使用量を把握し、その削減に取り組んでいる。	●		・県HP掲載の簡易シートを用いて毎月のエネルギー量を把握し、削減に取り組んでいる。 ・建屋の照明器具はすべてLEDを使用している。							7.3					13							
	24	【温暖化対策】 ・自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる。	●		・県HP掲載の簡易シートを用いて毎月のCO2排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる。 ・グループ会社が導入している従来の設備ではなく、より省エネに配慮した設備の導入を行っている。		2.4					7.2 7.3 7.a				12.4	13	14	15					
	25	【生物多様性】 ・自社活動が環境(生物多様性や生態系等)に悪影響を及ぼさないように配慮している。	●		・一年に一回、排水の自主検査を行い、環境に配慮している。						6.6							14	15					
	26	【効率的な資源利用】 ・ごみを減らし、資源を有効的に繰り返し使うため、発生抑制(リデュース)、再使用(リユース)、再生利用(リサイクル)に取り組んでいる。	●		・製造時に発生するロスやオフグレード品については、サーマルリサイクル材料へ回し、資源を有効活用している。							9.4			12.2 12.4 12.5	14.1	15							
	27	【水の管理】 ・熊本の水資源の質と量の保全に取り組んでいる。	●		・工場内で利用する水は、すべて循環システムとなっており、水資源保全に寄与している。	2.4					6.1 6.3 6.4 6.6 6.b				11.5		14.1 14.2 14.3	15		17				
	28	【環境に配慮した製品等】 ・環境に配慮した製品の購入や製品の開発・製造に取り組んでいる(グリーン購入、リサイクル製品認証等)。	●		・生産する製品はバイオマスマーク認定製品の原料であり、生産物の50%はバイオマスを利用している。						9.4			12.4 12.5	13	14	15							
	29	【食品ロスの削減】 ・食品ロスの削減に取り組んでいる。	●		・熊本県内から発生する非食用米等を中心に、九州管内からの原料調達に取り組んでおり、ゴミ問題、フードロス問題に対応している。	1	2				6.4					12.3		14	15		17			
	30	【緑の保全管理】 ・壁面緑化や植栽など緑の創出と保全、管理に取り組んでいる。	●		・敷地内の空き地に水田を設置し、作物の作付も行っている。										11.6 11.7	13.1 13.3		15		17				
	31	【エネルギー効率の見直し・再生可能エネルギーの利用】 ・高効率機器の導入等によるエネルギー使用率の改善またはや再生可能エネルギーの利用に取り組んでいる。	●								7.1 7.2 7.3 7.a		9.4		11.5		13.1 13.3							
	32	【森林資源の循環利用に向けた取組み】 ・“伐って、使って、植えて、育てる”の持続的な森林利用への取組みを推進している。	●								6		9.4		11.3 11.4 11.5	12.2	13		15					
	33	【植林等の取組み】 ・植林等の森林整備活動に取り組んでいる。	●								6.1 6.3 6.6					11.3 11.4 11.5	12.2	13		15				
	34	【海洋ごみ】 ・環境で分解しにくいプラスチックの使用削減等、海洋ごみ、海洋汚染の防止削減に貢献している。	●		・生分解性機能を持ったプラスチック原料の開発に成功し、用途開発を行っている。											12.2 12.5	14							
	35	【環境に配慮した交通手段】 ・電車やバスなどの公共交通機関の利用や、電気自動車や水素自動車などの環境にやさしい自動車の使用を促進している。	●										9.4		11.2		13.1 13.3							
	36	【2050年CO2排出量実質ゼロへの取組み】 ・2050年CO2排出実質ゼロを目指し、計画的にCO2削減に取り組んでいる。	●		・2050年CO2排出実質ゼロを目指し、製造工程全般から完成品まで国が示すロードマップに沿った計画を実行している。						7.1 7.2 7.3 7.a		9.4		11.6 11.a	12.8	13						17.2	

チャレンジ項目記入数 16

分類	No.	チェック項目	基本	チャレンジ	具体的な取組み (※事業者が記載する欄)	主なSDGs(17のゴールと169のターゲット)																
						1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
製品・サービス	37	【製品・サービスの安全性と品質】 ・製品・サービスの安全性や品質を確保する仕組みを構築している。	●		・自社による物性検査及び、外部識者によるクロスチェック体制を構築しており、安全性、品質共に担保できる仕組みを構築している。			3.9						9			12.4					
	38	【ユニバーサルデザイン】 ・障がい者、高齢者に特定せず、誰もが利用しやすいサービス提供や環境整備を行っている。	●		・事務所・工場双方ともに全てのフロアが段差のないバリアフリー設計となっている。									9.1	10	11.7						17
	39	【地域資源】 ・地産地消を推進し、熊本県産の原材料を優先的に使用している。	●		・主原料となる非食用米は主に熊本県産を使用している。	2.3 2.4						7.3	8	9		11.a	12.3	13	14	15		17
	40	【木質化の取組み】 ・自社の執務室等の天井や床、壁等の内装や外壁等に木材を使用し、木質化を推進している。	●		・自ら製作した内装類については、ほとんどが木を利用したものにしている。						7					12.2	13.1		15			
	41	【社会課題解決】 ・社会課題を解決するための製品・サービスの開発・展開に取り組んでいる。	●		・最大バイオマス率70%のプラスチック原料を生産しており、それを用いた2次加工(成形等)の企画、展開に取り組んでいる。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	42	【攻めの農林水産業】 ・地域における産学官連携等による新たな品種開発を促進するなど、地域レベルで農林水産業の生産能力向上に取り組んでいる。	●		・【予定】耕作放棄されていた土地での原料米作付けを賛同企業と共同で実施しており、昨今の米を取り巻く情勢を考え、食用米も協働で生産を実施する【令和8年6月実施】。その一部には、耕作放棄地をこれまでの過去2年間で耕起した水田も活用し食のセーフティネットワークとして活用する。	2.3 2.4							8.2	9.2 9.4		11.a	12.2		14	15		17
持続可能な社会・地方創生	43	【地域への参画】 ・自治活動や福祉活動、防災活動や寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる。	●		・定期的に立地している産業団地内や海岸の清掃活動を行っている。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	44	【防災、減災、レジリエンス(自助)】 ・過去の地震や水害などの災害を教訓に、事業への被害を防止・軽減するため、ハザードマップを確認し、避難行動計画や事前防災対策を進めている。	●		・従業員にハザードマップを周知しており、それを踏まえた災害対応する保険に加入している。				4							11.5		13.1			16	
	45	【防災、減災、レジリエンス(共助)】 ・地域防災の担い手としての認識を持ち、防災士、水防団員、救助救急等の必要な技能を持つ社員を育成したり、地域消防団の活動に参加している。	●		・従業員に各居住地域の消防団への加入を推奨している。 ・経営側が防火管理者の資格を取得し、防災意識を高めている。 ・事業所内に防災備蓄として食料品や水を保管している。	1.5		3	4						10.2	11.5		13.1			16	17
	46	【防災関連商品の開発・販売】 ・防災関連商品の開発・販売を促進している。	●											9		11	12	13.1				
	47	【SDGsの普及啓発】 ・環境問題や人権問題をはじめとした社会課題の解決に向け、SDGsの普及啓発や教育機会の提供を行っている。	●		・自社製品を使ったSDGs教育の実施を行い、全国から環境学習で訪れる学生や視察団に向けて学習講座の機会を提供している。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
	48	【インターンシップ等の受入れ】 ・職場体験、インターンシップの受入れ、職場関連授業の実施など、地域の児童や学生に対し、職業の学びの場を提供している。	●		・工場見学や職場体験・インターンシップなど、要件を満たせば常時受け入れる体制を整えている。				4				8.6		10.2						17	
	49	【若者の地元定着等】 ・若者の県内就職を促進する取組みを行っている。	●		・地元の県立高校に向けた就職イベントに参加し、地元就職のPRを行っている。 ・探求学習の一環として企業の課題を解決するプログラムに企業側として参加している。				4.4				8.5 8.6								17	
	50	【農林水産業の担い手確保】 ・子どもに対する農林水産業教育を行うなど、地域における農林水産業従事者の確保に取り組んでいる。	●		・パートナー企業と耕起した水田を活用した、子供たちとの水稻作付体験の機会を提供している。		2		4.3 4.4 4.5				8.6		10.2		12	13	14	15		17

・基本項目は25項目全てに、チャレンジ項目は25項目のうち5項目以上に具体的な取組みを記載してください。
 ・「企業」や「社内」とあるものは、NPO法人や個人事業主等はそれぞれの形態に応じて、読み替えてください。
 ・【予定】の項目は1年以内に【〇年〇月実施】として、具体的な取組みを記載のうえ、提出してください。